

# 平成15年度 和歌山県文化奨励賞

ます だ かん  
増 田 感 (本名 ます だ たか あき 増田隆昭)

住 所：スペイン バルセロナ  
和歌山県西牟婁郡上富田町  
出 身 地：奈良県  
生 年：昭和25年

ンのバルセロナと中辺路町に工房を持ち、年に3、  
4度行き来しながら、音を主題にした彫刻の制作  
を続けている。

## ◎業績及び経歴

大阪芸術大学彫刻科在学中に「箱根の彫刻の森」  
に出品した作品が入選する。

同大学卒業後、木の彫刻づくりに専心する中、  
木をノミで掘っているときに響いた音に衝撃を覚  
え、ギターづくりを学ぶために、昭和50年に単身  
スペインのグラナダに渡る。そこでギター作家の  
工房に出入りし、かじ屋の門もたたいて鉄の作品  
にも研鑽を重ねる。

昭和57年には、スペインのバルセロナのジョア  
ン・ミロ美術館で、平成元年には、バルセロナ現  
代文化センターでそれぞれ個展を開催し、好評を  
博した。

こうした活動が評価され、平成2年には、スぺ  
インの現代作家20人に選ばれている。

日本国内では、平成元年「音のある美術」(栃木  
県立美術館)や平成8年「絃声林 視覚と聴覚の間  
で 増田感展」(芦屋市立美術博物館)などを開催  
している。

県内では、平成9年に「音の経」計画のひとつ  
として〈音の居〉を中辺路町の谷間に設置、平成  
11年に「熊野古道」と「サンティアゴへの道」(ス  
페인・ガリシア州)の姉妹道提携を記念して、〈朝  
日の鐘〉を制作、現在、田辺市の新庄総合公園に  
設置されている。また、平成11年に、和歌山県立  
近代美術館で「熊野の音+熊野の色 増田感・北  
堅吉彦展」を開催している。

氏は木や金属が持つ独自の音を引き出すという  
ユニークな仕事で評価を得ており、現在もスぺ